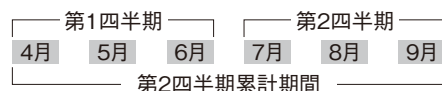


当第2四半期累計期間の売上高は、第2四半期が、第1四半期に比べ144億円の増収となるなど回復傾向が見え、3,933億円となりました。営業利益も、第1四半期は5億円の損失でしたが、第2四半期には97億円と黒字転換し、当第2四半期累計期間の営業利益は91億円となり、大きく改善しました。経常利益および四半期純利益も増益基調となっています。

財政状態は、たな卸資産の削減努力などにより総資産のスリム化を進めた一方、手元資金を手厚くしていることもあり、有利子負債が若干増加しましたが、自己資本比率は、前期末に比べ0.7ポイント上昇の45.7%となりました。

注) 期間名称について

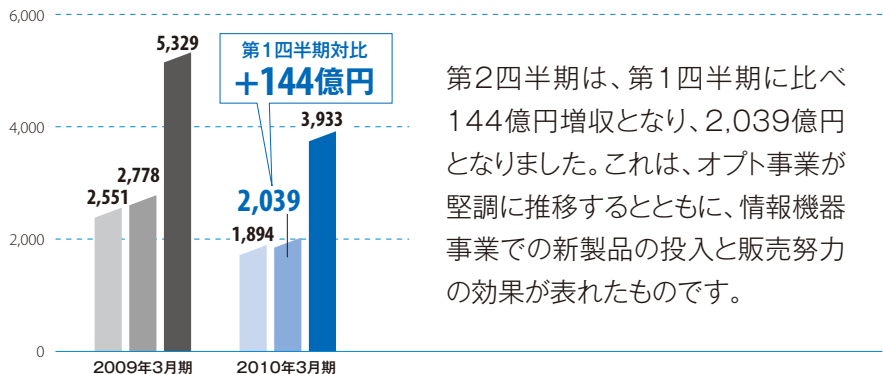


連結損益について

連結業績 (億円)

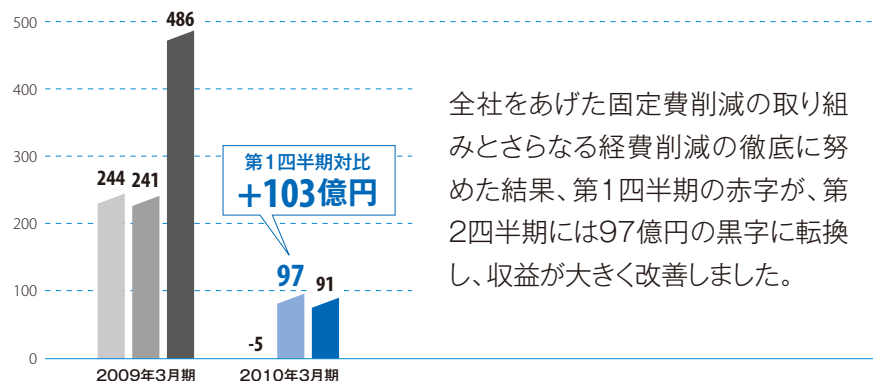
	前第2四半期累計期間 2008年4月1日～2008年9月30日	当第2四半期累計期間 2009年4月1日～2009年9月30日
売上高	5,329	3,933
売上総利益	2,432	1,688
営業利益	486	91
経常利益	478	87
四半期純利益	292	35

売上高 (億円)



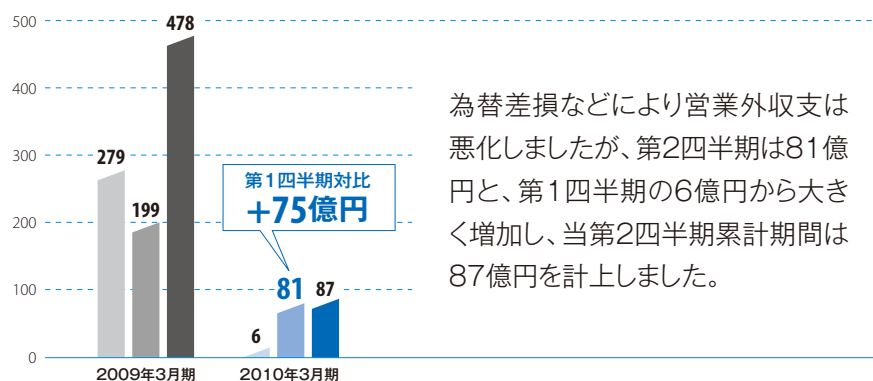
第2四半期は、第1四半期に比べ144億円増収となり、2,039億円となりました。これは、オプト事業が堅調に推移するとともに、情報機器事業での新製品の投入と販売努力の効果が表れたものです。

営業利益 (億円)



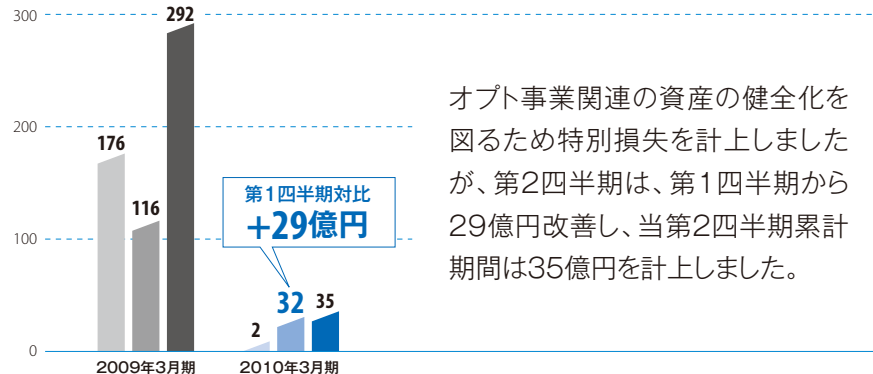
全社をあげた固定費削減の取り組みとさらなる経費削減の徹底に努めた結果、第1四半期の赤字が、第2四半期には97億円の黒字に転換し、収益が大きく改善しました。

経常利益 (億円)



為替差損などにより営業外収支は悪化しましたが、第2四半期は81億円と、第1四半期の6億円から大きく増加し、当第2四半期累計期間は87億円を計上しました。

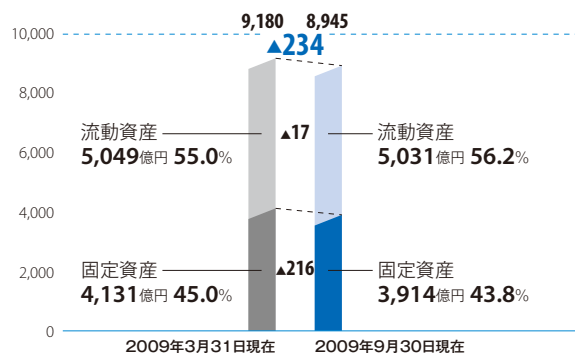
四半期純利益 (億円)



オプト事業関連の資産の健全化を図るため特別損失を計上しましたが、第2四半期は、第1四半期から29億円改善し、当第2四半期累計期間は35億円を計上しました。

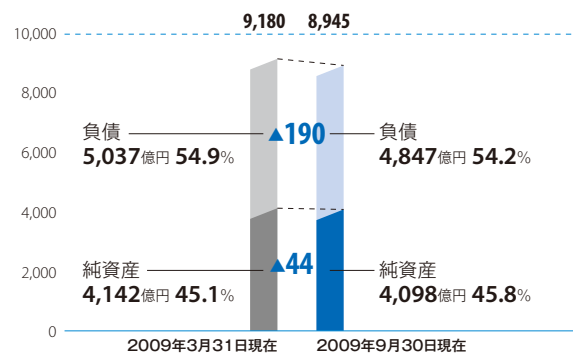
連結財務状態について

総資産（億円）



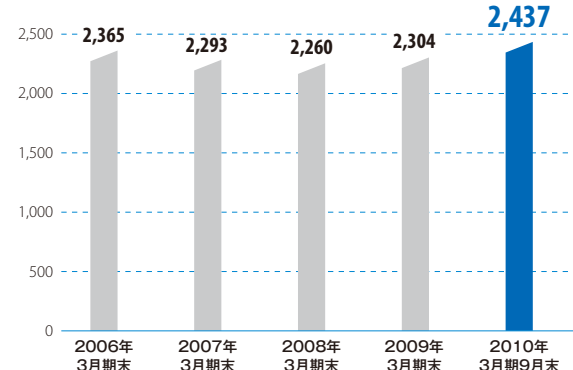
手元資金を厚くする一方、たな卸資産の削減に努め、流動資産の増加を抑えました。設備投資を厳選したことなどにより、固定資産が減少した結果、総資産は、前期末に比べ234億円減少し、8,945億円となりました。

負債・純資産（億円）



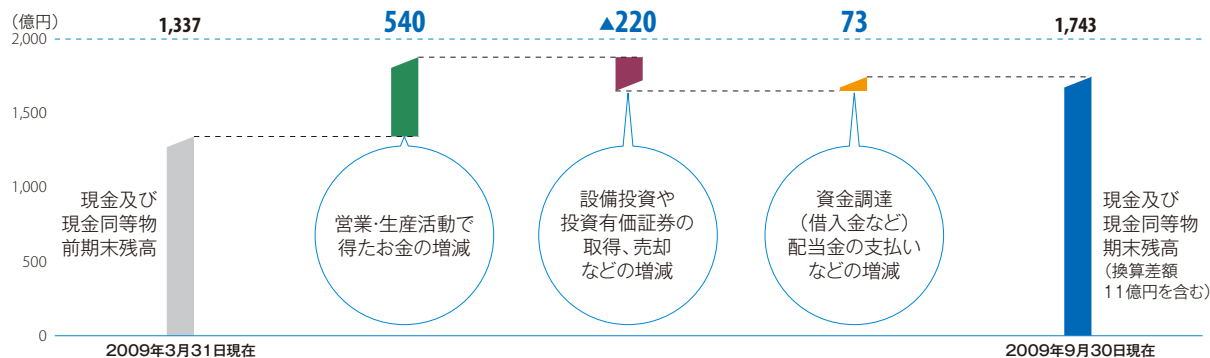
長期借入金を増加させたことで固定負債が増加しましたが、流動負債の削減により、負債合計は減少しました。純資産も為替換算調整勘定の変動により減少しましたが、総資産の減少により自己資本比率は0.7ポイント改善しました。

有利子負債（億円）



昨今の金融市場の動向から手元資金を厚くしていることにより、前期末に比べ133億円増の2,437億円となりました。

連結キャッシュ・フローについて



営業キャッシュ・フロー

たな卸資産の減少を主とした運転資本の好転などによる増加と、未払金などの支出との相殺により540億円のプラスとなりました。

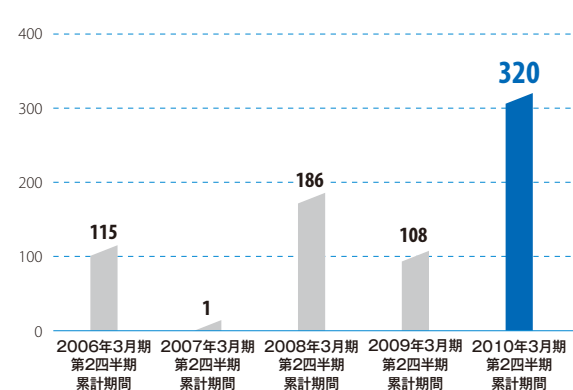
投資キャッシュ・フロー

情報機器事業の新製品ののための金型および戦略事業のオプト事業における生産能力増強などへの投資の結果、220億円のマイナスとなりました。

財務キャッシュ・フロー

株主の皆さまへ配当を行いました。手元資金を厚くするため借入を行った結果、73億円のプラスとなりました。

フリー・キャッシュ・フロー（億円）



前第2四半期累計期間に比べ、212億円増の320億円となり、フリー・キャッシュ・フローは、プラスを維持しています。